

第8次宮城県地域医療計画の達成状況・進捗状況

【進捗状況 凡例】
 計画策定時の数値と把握可能な最新値を比較して
 目標値に近づいている指標 … ↗ 目標値から遠ざかっている指標 … ↘
 数値が同じ指標 … = 数値及び年度が同じ指標 … -

【第8編】保健医療サービスの充実・強化

分野	目指すべき取組の方向性	令和6年度の主な事業実施状況	数値目標						事業の今後の方向性		
			指標	計画策定時 (指標値及び把握時点)		把握可能な最新値 (2025年3月時点)		目標値 (2029年度末時点)		達成状況 (2025年3月時点)	進捗状況 (2025年3月時点)
医療安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療施設における法令等に基づく医療の安全管理体制を整備し、その機能面の充実を図ることによって、良質かつ適切な医療を推進し、県民の医療に対する信頼を高めます。 ○ 医療安全支援センターの運営について、患者・住民と医療施設との信頼関係の構築を支援することを基本として、中立的な立場から相談等に対応し、患者・住民と医療施設の双方から信頼されるよう適切な対応と支援に努めます。 	<p>【医療監視及び病院管理指導事業】 医療法に基づく立入検査実施や、国等の通知の周知により、医療施設における安全対策の充実強化を図る。 ● 医療法第25条に基づく定期立入検査 375件</p> <p>【医療安全支援センター運営事業】 医療相談窓口を設け、専任の相談員を配置することにより、県民が安心して相談できる体制を確保する。 ● 医療相談対応件数 1,930件</p> <p>【医療機能情報提供システム(みやぎのお医者さんガイド)運営事業】 医療機関に関する情報(名称、所在地、診療時間、提供する医療機能等)を集約してウェブサイトで公表することにより、県民が安心して相談できるよう情報を提供する。 ● トップページアクセス数 69,941件</p>	医療安全管理部門を設置している病院数	131/135病院 (※)	令和5年度	130/134病院	令和6年度	全病院	未達成	=	<p>【医療監視及び病院管理指導事業】 医療安全の確保が図られるよう、事業内容を継続する。</p> <p>【医療安全支援センター運営事業】 県民が安心して相談できる体制を維持するよう、事業を継続する。</p>
			患者のための相談窓口を設置している病院数	110/135病院	令和5年度	124/134病院	令和6年度	全病院	未達成	↗	<p>【医療機能情報提供システム(みやぎのお医者さんガイド)運営事業】 医療機能情報提供システムの全国統一化に伴い、令和5年度をもって「みやぎのお医者さんガイド」の運用を終了し、令和6年度から国が運営する「医療情報ネット」により、医療機能情報の提供を行う。</p>
健康危機管理対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民の生命と健康を脅かす健康危機が発生し、又は発生のおそれがある場合に備えて、健康被害の発生予防、拡大防止、治療等を図る健康危機管理体制を整備するとともに、その充実強化に努めます。 ○ 県民への的確な情報提供に努め、日頃からリスクコミュニケーションの推進に努めます。 ○ 地域の健康危機管理の拠点となる保健所においては、健康危機管理に係る責任者を中心とした情報の一元管理及び平常時からの訓練、研修による人材育成に重点的に取り組みます。 	<p>【災害時健康危機管理支援チーム養成研修(基礎編、高度編)派遣】 日本公衆衛生協会又は国立保健医療科学院が実施する健康危機管理支援チーム養成研修に職員を派遣し、チーム構成員としての技術習得を図る。 ● 災害時健康危機管理支援チーム養成研修受講状況(H28年度～) 基礎編 R6年度 6名 ※累積56名 標準編 R6年度 2名 ※累積22名 特別編 R6年度 -名 ※累積3名 ● ファンリテーター研修 R6年度:1名 ※累積7名 ● 統括DHEAT研修 R6年度:1名 ※累積3名</p>									<p>【災害時健康危機管理支援チーム養成研修(基礎編、高度編)派遣】 DHEAT養成研修への計画的職員派遣、県外派遣・県内応援のスキームの検討や県独自の研修・訓練の実施を推進していく。</p>

※計画策定時点では、「132病院」で設置しているとのことだったが、その後、1病院において、未設置であったことが判明したため、「131病院」に修正しております。

分野	目指すべき取組の方向性	令和6年度の主な事業実施状況	数値目標						事業の今後の方向性		
			指標	計画策定時 (指標値及び把握時点)		把握可能な最新値 (2025年3月時点)		目標値 (2029年度末時点)		達成状況 (2025年3月時点)	進捗状況 (2025年3月時点)
医薬品提供体制	<p>○ 薬局と医療機関・多職種との連携を推進し、かかりつけ薬剤師・薬局としてより安全で有効的な薬局機能の充実を図り、県民のセルフメディケーションを支援します。</p> <p>○ 地域包括ケアシステムを担う一員として、薬局の在宅医療への参画を推進します。</p> <p>○ 新興感染症発生時や、災害時及び緊急時を想定して円滑な医薬品供給体制を構築し、県民・患者に対して必要な医薬品を適切に供給できるようにします。</p>	<p>【認定薬局等整備事業】 改正薬機法により新設された認定薬局制度普及推進及び基盤整備のため、当該薬局に求められる医療機関等との連携体制構築のための取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域連携薬局の整備に係る事業 認定薬局制度や目指すべき方向性を正しく理解することを目的とした研修会を実施。(1回、44名参加) 在宅医療及び無菌製剤処理に関する研修を実施し、薬局に対し無菌調剤の手法等を周知した。(1回、38名参加) 認定制度及び在宅訪問可能な薬局に関して、ラジオ、テレビCM、新聞掲載及び仙台駅内でのデジタルサイネージを活用した動画配信により、県民への周知を図った。 ● 専門医療機関連携薬局の整備に係る事業 服薬情報提供書についてワーキンググループを開催。県内共通書式について患者情報共有ツールの最適化を図った。 薬剤管理指導情報及び薬剤管理サマリの薬局への情報連携ツールを構築し、県内病院に配布。 専門医療機関連携薬局とがん診療連携拠点病院との連携、がん患者のフォローアップや入院時の連携、入院時のポリファーマシー対策結果の薬局への情報連携等の事例について、医療機関・保険薬局に対し研修会等で周知。 	かかりつけ薬局の割合	52.3%	令和4年度	55.0%	令和6年度	100%	未達成	↑	<p>【認定薬局等整備事業】 専門性の高い薬剤師の養成、認定取得に向けた研修会等の事業を行い、医療提供体制のひとつとして認定薬局が効果的に機能するよう、基盤整備にかかる事業を引き続き推進していく。また、認定薬局の利用促進を図るため、継続して県民への周知を行う。</p> <p>【非常災害用医薬品確保対策事業】 随時品目の見直しを図りながら流通備蓄を継続していく。</p> <p>【薬事啓発事業】 今後も継続して医薬品の正しい知識の普及・啓発に努めていく。</p>
		地域連携薬局数	76件	令和4年度	90件	令和6年度	200件	未達成	↑		
		専門医療機関連携薬局数	6件	令和4年度	7件	令和6年度	8件	未達成	↑		

分野	目指すべき取組の方向性	令和6年度の主な事業実施状況	数値目標						事業の今後の方向性		
			指標	計画策定時 (指標値及び把握時点)		把握可能な最新値 (2025年3月時点)		目標値 (2029年度末時点)		達成状況 (2025年3月時点)	進捗状況 (2025年3月時点)
血液確保 及び臓器移 植等対策	<p>○ 平成26(2014)年に厚生労働省が設定した「献血推進2020」に基づき、若年層の献血者数の増加、安定的な集団献血の確保、複数回献血の増加を目指す。</p> <p>○ 宮城県合同輸血療法委員会の活動を通して、血液製剤の適正使用を促進する。</p> <p>○ 臓器移植普及推進街頭キャンペーンの開催や資材等の作成・配布を行い、臓器移植について県民の理解を深める機会を設け、臓器提供の可否や治療選択の判断の一助となるよう普及啓発を行う。</p>	<p>【献血推進普及指導事業】 安全な血液製剤の安定供給を確保するため、献血について普及啓発事業を実施する。</p> <p>● 若年層対策として、「献血アニメむすび丸CM」を楽天モバイルパーク宮城で試合前に放送したほか、ベガルタ仙台の選手やキャラクター等による動画広告や各種キャンペーンを実施し、普及推進に努めた。</p> <p>【臓器移植コーディネーター設置事業】 宮城県の臓器移植コーディネーターを1名設置する。</p> <p>● 公益財団法人宮城県腎臓協会に委託して宮城県臓器移植コーディネーターを1名設置し、県民や市町村、医療機関に対して移植医療に関わる正しい知識の普及啓発を図るとともに、県内の臓器提供協力医療機関等に対して定期的に巡回し臓器移植に関する情報提供を行った。イベント等を利用し、県民への普及啓発を行った。</p>	若年層(10代)の献血率	5.4%	令和4年度	5.6%	令和6年度	2029年度国の目標値		↑	<p>【献血推進普及指導事業】 血液製剤使用適正化の推進を目的に医療従事者を対象とした説明会を年1回開催する。また、若年層対策として、第61回献血運動推進全国大会の開催目的に「若年層の献血気運を高める」を掲げ、アトラクション等への高校生の参画を通じて、献血へのきっかけづくりに努めるとともに、赤十字血液センター、県教育庁及び県が連携・協力して県立高校への献血啓発の取組を行う。さらに、県内スポーツチームと連携した献血普及推進キャンペーン等を継続し、献血への理解向上を図っていく。</p> <p>【臓器移植コーディネーター設置事業】 今後も継続して実施する。</p>
			若年層(20代)の献血率	6.4%	令和4年度	5.7%	令和6年度	2029年度国の目標値		↓	
			若年層(30代)の献血率	5.7%	令和4年度	5.4%	令和6年度	2029年度国の目標値		↓	